

第1回狛江市基本計画策定分科会（第一・第二・第三合同分科会）会議録

- 1 日 時 令和元年5月21日（火）午後7時～8時49分
- 2 場 所 特別会議室
- 3 出席者
 - ・第一分科会 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司
副委員長 平谷 英明 委 員 五十嵐 夕介
委 員 猿谷 享子 委 員 柴崎 雅代
委 員 都築 完 委 員 吉田 尚子
 - ・第二分科会 副委員長 五十嵐 太一 副委員長 富永 和身
副委員長 馬場 健司 委 員 五十嵐 秀司
委 員 後藤 千尋 委 員 清水 満
委 員 成井 篤 委 員 橋本 研
委 員 平山 達郎
 - ・第三分科会 委員長 高橋 信幸 副委員長 佐藤 正志
委 員 井沢 潤 委 員 梶川 朋
委 員 周東 三和子 委 員 林 健彦
委 員 松本 すみ子
 - ・事務局 高橋企画財政部長 田部井政策室長
池田企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
西村企画調整担当主任
- 4 欠席者
 - ・第一分科会 なし
 - ・第二分科会 委員長 杉浦 浩
 - ・第三分科会 副委員長 太田 ひろみ 委 員 林田 直子
- 5 議 題
 1. 開会
 2. 委嘱状の交付
 3. 次期基本計画の策定にあたって
 4. 関連計画及び報告書について
 5. 委員自己紹介
 6. その他

6 会議概要

議題1 開会

－狛江市総合基本計画審議会福島委員長より開会の挨拶－

事務局 通常、3つの分科会は別々に運営するものであるが、本日の第1回については3

つの分科会に共通する内容を議題としていることから、合同で開催させていただいた。なお、本日の議事進行については、狛江市総合基本計画審議会委員長でもある福島第一分科会委員長にお願いする。

議題2 委嘱状の交付

－各委員に委嘱状の交付－

議題3 次期基本計画の策定にあたって

－事務局より資料の説明－

会議については原則公開とし、議事録については委員名表記の要点筆記とする。

議題4 関連計画及び報告書について

－事務局より資料の説明－

議題5 委員自己紹介について

事務局 委員自己紹介については、各分科会ごとに行い、事務局の各分科会担当も入らせていただければと思う。

【第一分科会】

委員長 議題5「委員自己紹介」について、各委員より自己紹介をお願いします。

平谷委員 狛江市の会議体で、狛江市安心で安全なまちづくり推進審議会の会長をしているが、安心・安全施策を推進するに当たって重要な点を述べたい。

1点目として、安心・安全施策については所管部署である安心安全課だけではなく、教育や地域振興も含め、様々な分野に及ぶものであることから、全庁的に対応することが重要である。全庁的な体制のもと、安心で安全なまちづくりを推進していただきたい。

2点目として、地域コミュニティの活用が重要である。狛江市は幸いにも地域コミュニティが活発であることから、それを活かして安心で安全なまちをつくっていただきたい。例えば、千葉県柏市では地域コミュニティを活かした振り込め詐欺対策等も行っている。他にも、空家や独居老人の見守り等にも地域コミュニティを活かせると思う。

3点目として、広域連携の視点が重要である。震災が発生した際、仮に東京都全体が大きな被害を受けたとしても、遠方の地域と防災協定を結んでおくことで、支援をしてもらうことができる。

これら3点も含め、基本計画の議論が今後できればと思う。

上田委員 普段は日本NPOセンターで働いている。市内在住であり、子どもが通っている小学校やおやじの会等で地域の保護者とも接することがあるが、皆さん地域活

動に積極的な印象を受けている。

また、小田急線の高架下にある狛江市市民活動支援センター運営委員会の副委員長でもあるが、今後より一層、市民参加と市民協働によるまちづくりが進むと良いと思っている。

財政についてだが、各自治体の決算カードを読む勉強会に参加したことがあるが、狛江市は地方都市と比較して財政の健全化が図られていると感じている。

吉田委員 仕事は人の悩みのカウンセリング等を行っている。

平和についてだが、一人ひとりの心の平和が満たされれば、社会は平和になっていくと思う。子どもたちも含め、市民一人ひとりが狛江で生活する中において、心の平和が育まれば良いと考える。

先ほど人口が微増傾向にあるという説明が事務局からあったが、高齢者が増えていくことは止められない。そのため、いかに健康的で、いきいきと活動できる高齢者を増やしていくかという視点が重要と考える。アイデアを出し合う中で、健康的に活動できる年代を増やしていければ良いと思う。

都築委員 市内で主に土木関係の仕事をしている。狛江市の会議体では、外部評価委員会で何年か委員をしているが、他の市民委員の皆さんと共に様々な事務事業評価を行う中で、良い部分もそうでない部分も発見できた。自治体経営という意味では、減らすべき事業もあるが、もっと伸ばすべき事業もあると考える。行政が実施する事業の中で、全く必要でない事業やすぐにでもやめるべき事業は少ないと思うので、いかに効率よく事業を実施するかが重要であり、これからの課題でもあると思う。

安心・安全施策については、住んでいるマンションの築年数がだいぶ経過し、高齢者も増えてきたが、市内には町会・自治会に加入していない集合住宅もあると思う。地域と交流を持つことが防災面でも防犯面でも重要と考える。また、マンションの管理組合もなかなか担い手がない。どの地域団体にも共通することであると思うが、団体の高齢化や担い手不足は課題と考える。

柴崎委員 私は多摩川側から見て、水道道路の内側に住んでいる。知っている人は知っていると思うが、昭和の多摩川水害のそばに住んでいる。ハザードマップでは、避難すれば大丈夫な地域であるが、数年前に台風が来た際、かなり水かさが増していたが避難放送は流れなかった。避難放送は石原観測所で水量を観測した後に放送する仕組みと聞いているが、放送が流れてから避難するようでは間に合わないと考えている。また、地震の場合は多摩川左岸へ避難、洪水の場合は第一中学校へ避難とされているが、第一中学校まではどう考えても間に合わず、地震の場合でも、ダムが決壊する可能性があるにもかかわらず多摩川左岸へ避難というのは、多摩川のそばに住む身としてはおかしいと感じる。

また、固定資産の申告書について、一昨年のみ申告書の様式が異なり、無駄が

あったと思う。些細なことかもしれないが、他にも無駄があるのではないかと考えてしまう。

アンケートにも記載があるが、市役所にパート形態の職員が多いのも確かだと思うが、職員によって対応が異なることが気になる。普通の民間会社であれば、社員への教育や訓練を行っているが、狛江市は行っているのか。職員の対応によって、市民の市に対する信頼が低下してしまうため、持続可能な自治体経営を目指すのであれば、足元を固めるべきではないかと思う。

防犯についてだが、公園や狛江駅の時計に昔は電気がついていて、何年か前に消えたままであり、行政サービスが抜けているのではと感じる。こうした積み重ねによって市政への信頼が低下してしまう。

猿谷委員 市外で働いていることから平日はほとんど狛江にいないため、あまり地域活動を行ったことがない。そのため、こうした機会に積極的に関わらなくては、自分の住んでいるまちのことを考え、知ろうとしなくなってしまう。

今回の機会を活用し、狛江市がどのように防災・防犯に取り組んでいるため安全に暮らすことができるのか、どのような財政状況にあるのかを知ることができればと思う。こうした知識を得た上で選挙に参加すべきと考えているが、なかなか学べる機会や知る機会がないため、今回勉強させてもらって、より良い狛江になるよう、自分たちが住みやすいまちづくりに寄与できればと思う。

五嶋(外)委員 普段は中学校の教員をしている。本分科会への参加動機だが、昨年度課題解決のワークショップに参加し、それまでは恥ずかしながら市政にそこまで関心はなかったが、参加したことでまちづくりというテーマが自分事となり、わくわくした気持ちもあり、今回良い機会と思い応募させてもらった。

まず、人権・平和についてだが、先ほど調べたところ、男女共同参画に関する取組やNPOにおける子どもの居場所づくり等、市内でも活動が行われていることが分かった。また、狛江市は人口が増加しているが、外国人に対しどのように対応しているのか、入国管理法の改正もあるため気になった。

次に、防災・防犯についてだが、学校で避難訓練担当をしている。先進的な事例として、仙台防災枠組のように、絵本のような形式で子ども向けの冊子を作成している自治体もあり、ホームページからも閲覧できると思うので興味があれば見ていただきたい。

最後に、行財政運営についてだが、数字だけではなく、まちづくりが実際にどうなっているのか、勉強させていただきたいと思う。

委員長 日本大学の法学部の教員であり、学識の委員として呼ばれたが、実は四半世紀ほど狛江市で暮らしていた。今は狛江市に住んでいないが、昭和の時代の狛江を知っており、都市として発展していく姿を見てきた。あれから30年近く経過したが、狛江の良さは、昭和の時代からこの時代にも受け継がれていて、基本構想素

案においても「狛江らしさ」が明記されたことは素晴らしいと感じている。

持続可能な自治体経営についてだが、都築委員をはじめとして、外部評価委員会において多くの市民委員と関わらせていただいた。行財政改革は、従来のような一律に何かをカットするという話ではなく、適切なPDCAサイクルを経て、業務の質が変わっていくことが重要である。行政が変わることで、市民生活が変わるわけだが、外部評価委員会では行政も市民も変わってきていることが実感できた。他自治体の外部評価では、チェックする立場の市民と、守りに入る行政との間で対立軸が生じることが多いが、現在の狛江市はそうではなく、お互いのヒアリングの中で何が悪いのか、何がうまくいっていないのかを明らかにするという行財政改革の一つのコミュニケーションツールとして作用している。

【第二分科会】

事務局 本日は委員長が欠席のため、馬場副委員長に進行をお願いする。

馬場委員 議題5「委員自己紹介」について、まず私からお話しさせていただく。東京都市大学環境学部で教授をしているが、住まいは狛江市の近隣である。現在環境保全審議会の委員を務めており、環境基本計画の改定及び生物多様性戦略の策定に向けて議論を進めているところである。

私自身の専門は気候変動や温暖化といった分野である。近年、大きく気候が変わってきており、様々な災害が起き始めている。今後、そういった変化にどのように適応していくかという点について研究を行っている。

今回議論を行う前期基本計画は、第4次基本構想の前半の5年間の計画であることから、遠い将来のことまで議論をする必要はないかもしれないが、来るべき未来に向けて、その前段として、狛江市が何をすべきかについて議論をできればと考えている。

五嵐(大) 委員 狛江市商工会の商業部会に所属しており、御台橋商栄会の顧問を担わせていただいている。商工会では、市内商業者への支援となるような事業等について、企画・立案をしている。

狛江市では、これまで様々な商業振興に向けた施策を展開してきたが、市全体としては厳しい状況にある。消費者が多様化しており、昔は23あった商店街が、現在は16となる等、商店街が衰退化してきている。また、大型スーパーの進出により、消耗品や生鮮3品の商店が徐々になくなってきている。加えて、市外で買い物をする方が増えてきている。

対策として、各商店の情報を掲載したチラシを全戸配布することを計画しているところだが、まずは、どのように消費者を確保していくかというのが、商業部門の一番の課題であると考えている。

富永委員 狛江市西野川で農業を営んでおり、野菜と花を作っている。狛江市に住んで70

年近く経っており、これまで地域のお祭りや消防団、防災会等様々な地域の団体に関わってきた。

狛江市の農地面積は約 30ha で、販売まで行っている農家は現在 50 件ぐらいと、数としては多くなく、加えて、農地の宅地化が近年進んでいる。狛江市の農家自体も規模が小さいところが多く、1ha 以上の農地を所有しているのは、2 軒か 3 軒ぐらいだったと記憶している。その分、枝豆や小松菜等、少ない面積でも収入が出るような農作物を作っているところが多い。その多くは、庭先の直売所での販売のほか、JA やスーパーに卸している。また、学校給食への提供も行っている。

また、住宅密集地であるため、災害時の避難場所の確保として農地を残してほしいという要望もあるが、相続税対策として農地を売却する農家が多いのが実情である。

農地自体は、今後増えることはないので、減少をどのように食い止めるかが大きな課題であると認識している。

五十嵐(秀) 委員 約 20 年前に狛江市に引っ越してきて、それまでは東京 23 区に住んでいた。引っ越してきた当初は、東京 23 区に比べて田舎だなと感じたが、住んでみると、土地が平坦で、物価が都心に比べて安いという良いところもあり、次第に住みやすいと感じていった。過去には不動産関連の業務に従事していた。

近年は、地域に少しでも貢献したいという想いから、外部評価委員会の委員やまちづくり委員会の委員を務め、この度本委員会の委員にも応募させていただいた。

狛江市の課題は、良いところなのに、それがアピールできていないところにあると考える。また、地域の商業が衰えてきていること、多摩川という資源を活かしきれていないことも課題であると考えます。

近年、大型マンションの建築が続いており、私自身もまちづくり委員としてマンション建設に係る業者と近隣住民の調整に携わったことがあるが、規制を厳しくして住環境を維持していくことも重要だが、厳しすぎると若い人が住んでくれるようなマンションが建ちにくくなるといった面があり、規制の難しさを認識した。生産緑地の減少に歯止めをかけることももちろん重要だが、多摩川といった観光資源を活かしていくこと、ベンチャー企業の誘致等、市が活気づくような取組が必要ではないかと考えている。また、狛江市は古墳等、歴史的な資源も有しているため、歴史や文化といったものを育てていけたらと考えている。

後藤委員 狛江市に引っ越してきたのは平成 31 年 3 月で、たまたま無作為抽出の市民委員の案内をいただいたため、応募させていただいた。引っ越してきたばかりで、知らないことも多いが、逆に外部的な目線でお話ができたらと考えている。

仕事は、20 代半ばまで建築の設計の仕事をしており、現在はグラフィックデザイナーをしているため、都市計画に興味を持っている。

以前は、東京 23 区に住んでいたのだが、ゴミゴミしていたので、もう少し落ち着いたところに住みたいと思い、狛江市に引っ越してきた。家から 10 分ぐらい歩くと多摩川に行けるのだが、多摩川の周辺は汚いところがあり、どこにでも座れるような環境ではなく、環境を活かしきれていないように感じている。

住んで間もないため、現時点で問題意識はないが、皆さんと議論を深める中で共有していけたらと考えている。

清水委員 これまで、狛江市では安心安全や男女共同に係る委員会に所属してきた。過去には、文化施設や商業施設の企画設計を 30 年以上やっていた。

総合基本計画は、基本構想、基本計画からなるものだが、これらを少しでもわかりやすく、魅力的な文章にすることの手助けができればと考えている。

地域振興の分野について、各種データはそろっていると思うので、あとはいかに知恵を絞るかだと思う。自然環境・都市基盤の分野について、相反する 2 つをいかに共存させていくかがポイントになると考える。

成井委員 狛江市に住み始めたのは約 16 年前で、その前は東京 23 区に住んでいた。猪方に住んでいるが、多摩川が近く、住みやすいと感じている。狛江市は、自然がある等、良いところがある反面、それを活かしてきれていないところもあり、商店街を含め活気が足りないと感じる時もあるので、それらを改善し、より多くの方に狛江市に来てもらえるようにしたいと考えている。

橋本委員 狛江市には約 17 年前に引っ越してきた。普段は出版社に勤めており、地域のプロモーションやシティセールスの手伝いをしている。仕事の関係で、様々な自治体と関わる機会があるのだが、共通して言えるのが、住んでいる人がワクワクしていたり、楽しんで暮らしていないと、市外に住んでいる人には良いまちに見えないということである。

人が入ってきて、お金が回らないと、暮らしやすいまちにはできないと思うので、お金がうまく循環していくまちになれば良いと思う。

それぞれの分野について、具体的な課題等を考えてきたのだが、まず、地域振興の分野としては、体験型のコンテンツが少ないと感じている。世の中の価値観がモノからコトへ移行して既に何年もたっていると思うので、狛江ならではの、オンリーワンの体験型のコンテンツを作ることができれば、市外の方にもアピールできるのではないかと考えている。

次に、市民や市外から来た方が交流できる場があれば良いと考える。例えば、えきまえ広場でマルシェを開催して、狛江市の地場野菜を販売できれば、市外へのアピールにもつながるとともに、地場野菜を市民が購入するという循環ができるのではないかと考えている。

最後に、住民交流友好都市である小菅村とこれまで以上に連携ができれば良いのではないかと考える。環境省が、地域循環共生圏の創造に向けた取組をはじめ

ているが、小菅村との連携を通じて、地方にある良いところ、都市部にある良いところを分け合っていければと考えている。

平山委員 住まいは和泉本町で、FC 東京のサポーターをしている。

仕事については、昨年まで映画倫理機構の審査員をやっており、その前は、調布市の映画の撮影所に勤めていた。現在は、映画倫理機構の委員を務めている。調布市の映画の撮影所にいたときは、調布市の商工会に加入しており、狛江市とは仲良くさせていただいていた。

過去に、狛江市が第2の夕張市になるという噂を耳にしたことがあり、そのことがきっかけで、市政に興味を持ちはじめたのだが、本日事務局からの市の概要についての説明を受けて、人口増加についても財政状況についてもそれなりに頑張っているという印象を受けた。

田舎かと言われればそうではなく、都会かと言われればそうではない。大企業を誘致できる土地もないため、財政基盤が安定していない。そして、全分野において、決定的な目玉がないというのが、私が持っている狛江市の印象である。そういった状況の中で、目玉にできるのは文化・芸術しかないのではないかと考えている。目玉になるコンテンツができるよう、一市民として発言していきたいと思っている。

【第三分科会】

委員長 議題5「委員自己紹介」について、各委員より自己紹介をお願いします。まずは、佐藤委員からお願いします。

佐藤委員 現在、狛江市教育委員会教育長職務代理者を務めているが、元々は小学校の教員であり、最後は狛江市の緑野小学校に勤めていた。現在は、大学で教育分野で活躍を目指す学生の指導を行っている。狛江市の教育の良さは、市域が小さいが故に小回りが利いて、迅速に様々な課題を共有することができることであるが、一方で、小さいことにより活性化が失われていくこともある。基本構想で掲げる2つのまちづくりの視点の「狛江らしさを活かす」から、学校教育や社会教育を含めて進めていければ良いと考えている。それにもう1つの視点である「お互いを認め支え合い、ともに創る」から、地域協働の教育活動を更に充実させていくことが重要ではないかと思っている。本分科会において議論を重ね、より良い基本計画になれば良いと思っている。

委員長 次に、井沢委員をお願いします。

井沢委員 介護福祉士と社会福祉士の資格を持っており、高齢者福祉に携わっている。子どもを保育所に預けているが、いわゆる保活というものをしていないと現在の狛江市では保育所に中々入りにくいという実情に疑問を感じ、最近は児童福祉に興味を沸いている。男性も女性も普通に働くことができる社会を実現しないといけ

ない。民間企業では女性の社会進出をサポートするために育児休暇の期間を長くする等の対応をしているが、一方で育児休暇を取得することにより、保育所に入ることができないというミスマッチが現実には生じていると感じている。本分科会では、子育て環境の視点も含め議論を行っていければと思っている。

委員長 次に、梶川委員お願いする。

梶川委員 介護福祉士、社会福祉士の資格を持っており、介護福祉に携わっている。子どもがおり、最初は保育園の入所選考に落選したが、現在は保育所に預けることができている。狛江市からは平成 31 年度中に新たに完成する保育所をもって待機児童は解消するという説明を受けたが、今後のニーズや人口動態を含めて考えると、待機児童の解消は難しい問題である。また、狛江市総合戦略にも掲載されている子育て広場についてだが、特に保育園に入所する前に子どもと一緒に出掛ける場所が少ないと思っている。財政規模も人口規模も異なるが、世田谷区では、多くの場所があり、市民団体と連携して行っているが、狛江市では非常に少なく、また、行政中心で行っているイメージがある。そのような問題から、子どもと一緒に出掛けられる居場所をどのようにつくっていけるかということを考えていければと思っている。

また、子どもの育ちという視点では、保育所が新設されたとしてもその質をどのように保ち続けていくのか、また、子どもが成長するためには自然の中での体験も大事であると思う。

次に、福祉の視点では、福祉の多様なニーズを横でつなぐということも大事である。世田谷区では、子ども、高齢者、障がい者に関係なく窓口を 1 本化している。狛江市においても社会福祉法人の連絡会において同様のことを行うということを行ったが、それをどのように広げていくかは考えていく必要がある。富山型のデイサービスというものがあるが、高齢者、障がい者及び子どもが分け隔てなく受け入れられる居場所等を狛江市のコンパクトさを活かしながらつくっていければ良いと思っている。狛江ならではの地域共生社会をどのようにつくっていくかを考えていきたい。

最後に、社会教育にも関係するかもしれないが、現役世代の方がどう地域に関わっていけるのかということも考えていきたい。地域の中で役割があって、生きがいがあり、それが仕事にもつながるかもしれない。そういう土壌があれば狛江市に住みたいと思う若者も増えるかもしれない。そのようなことを本分科会で議論できればと考えている。

委員長 次に、周東委員お願いする。

周東委員 前回の狛江市の基本構想及びその後の外部評価委員会においても委員として携わらせていただいた。また、公民館の活動等に参加させていただく中で、市域が狭い狛江市において、もっと人とのつながりを大事にしていくべきだと感じた。

市民センターの建替えのことも考えていく中で、様々な世代が集えてつながれる場をつくっていかないといけない。例えば、地域毎に空家を活用し、そこに本が置いてあって、子どもから高齢者までが集い、つながっていけるような場所が歩いていける所にあるというようなことが実現できれば良いと思っている。

委員長 次に、林委員をお願いします。

林委員 図書館についてであるが、市で毎年行っている市民アンケートの中では、子育てや高齢者の問題と同様、図書館の問題にも触れられており、狭い、本が少ない等の意見が散見される。

次に、健康寿命について、運動と食事が効果的であるといわれてきたが、NHK番組「AIに聞く 健康寿命とは」によると、健康寿命全国1位の山梨県を分析すると、読書が知的好奇心を呼び起こし行動するきっかけづくりになる、身近な図書館の存在が読書習慣を根付かせていることが判明した。また、1人暮らしが肯定的に捉えられ、友人とのおしゃべり、居場所づくりが大事ともいわれていた。

私は、西河原公民館で外国人の方に日本語を教えるグループに参加しているが、その内、特に外国人の子どもについて、日本語が不十分な場合には、学校での生活において親が申請すると補助教員がつくことがあるそうだが、申請は日本語であるため、実態としては親が申請するのは難しいとのことである。基本構想においても多文化共生社会が謳われており、狛江市では今後学校教育の中で保障していく、教育委員会においてボランティアが公的に関われる仕組みをつくり、フォローしていくことが重要ではないか。

最後に、子ども食堂についてだが、子どもの居場所も含めて子どもの貧困は今後考えていかないといけないと思う。本分科会においては、子どもの問題や福祉の問題、様々な人の居場所づくり等について議論していければと思っている。

委員長 次に、松本委員をお願いします。

松本委員 アクティブシニアという視点について、団塊の世代の人たちは年齢的には高齢者の分類だが、皆元気でまだまだ活躍できる人も多い。20年間程度団塊の世代の動向調査やその世代に向けた講演等を行ってきたことにより、その世代の人と会うことが多いが、皆まだまだ元気である。外国人への支援や子ども食堂の運営等、そのような人たちが活躍できる場所はたくさんあると思うが、どうしたら良いか分からなくて閉じこもってしまう人が多いのも事実である。特に男性はそのような傾向にあるため、そのような人たちが活躍できる居場所をつくれると良いと思う。高齢者がもう一度活躍できる居場所を市域が小さい狛江の中でつくれると良い。家に閉じこもっている人は自分が何をやったら良いのか分からない人が多いため、居場所をつくり、こちらから提案しマッチングしてあげると良い。狛江市は文化的で面白いまちであるため、もっと良いところを伸ばしていくという視

点でも考えていきたい。

委員長 最後に私から話をさせていただく。特定非営利活動法人日本地域福祉研究所の理事、主任研究員及び事務局長を務めている。元々は三鷹市の職員で、高齢者福祉行政に携わっていた。その後、長崎県佐世保市で大学の教員をやっていた。地域福祉研究所では、自治体の地域福祉計画の策定や社会福祉協議会のコンサルテーション業務を行っている。狛江市においても、あいとぴあレインボープランの策定に携わった。

本分科会で議論する内容は、子どもや高齢者の視点等様々あるが、最近では、児童虐待の分野について関心がある。専門ではないが、最近発生する様々な事件に対しショックを受けており、昔は、親はなくても子は育つといったが、今は、親がいても子は育たない、という世の中になってしまった。昔は地域で育てていたが、今は狭い世界で育てていることによって様々な問題に直面して、虐待等の問題に至ってしまったのではないかと考えている。私は地域福祉が専門であるが、今後は、地域福祉という視点からも子育てをどのようにして地域で支えていくのか、という視点で考えていくことが大切であると思う。子育ての支援機関としては、児童相談所では措置機能を有しており、また、子ども家庭支援センターでは問題が起こらないように支援する機能を有している。両施設の機能共に重要であるが、問題が起こる前での支援は重要であるため、縦割りの行政ではなく様々な機関が連携し、切れ目のない支援を行っていく必要がある。

また、生涯学習や社会教育は学校教育と対比して考えられることが多いが、生涯を通じて地域社会の中で皆がどのように支えて学んでいくかという視点で考えると、学校教育と離して考えることは違和感がある。子どもの視点で考えたときに、子どもこそ縦割りでなく、育っていくにつれて幅広く様々な社会生活に関わっていくため、幅広い視点で地域全体として考えていく必要がある。本分科会はそれを全部できるのではないかと考える。狛江らしさを活かして、生涯を通じた暮らしの中の心の豊かさをどのようにつくっていくのかということを考えていきたい。分野別のまちの姿の4・5・6においては、縦割りでなく、地域社会で皆がどのように支え合っていくのか、ということを考えて議論していきたいと思う。

周東委員 児童虐待についてだが、現在、チャイルドラインでの支援を行っている。そこでは、親から子どものことについて相談があるが、どこに相談して良いのか分からないという相談もある。親のケアはとても大事である。

佐藤委員 学校教育という視点でみると、親のネットワークを作っていくことは重要である。また、図書館の話もあったが、公立の図書館だけではなく、学校の図書室も含めて考えていかなければいけない。学校教育も含めて考えていくというのが大事だと思う。

議題6 その他

委員長 その他特に意見等なければ、第1回狛江市基本計画策定分科会（第一・第二・第三合同分科会）を終了とする。